

## 吉野川を釣る！



(夕日に染まる吉野川河口)

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに300種ほどの魚(淡水・海水・軟体動物含む)を釣っています。

今回、徳島に本当に久しぶりに勤務することとなりましたので、「吉野川でルアーにより何種類釣れるのか」に挑戦してみたいと思います。現在54種達成ですが、今回は何種類釣れるでしょうか？

今まで、テーマで括ってご紹介してきたのですが、さすがに限界が来ましたので、今回は各テーマにあてはまらなかったものエトセトラ特集(巻)としてご紹介します。

[本来何らかの括りでご紹介しようと考えていたものの、諸事情によりまとまりきらなかったものを、その当時の思いを含めて振り返ってみたいと思います。](#)

釣った場所も時期もバラバラですが、ご容赦願います。



絵画のような旧吉野川

少し前にも書きましたが、ルアーで珍しい魚を狙っているのですが、当然、いつも狙っている魚が投稿用にうまく釣れるわけもなく、また、狙ってなくても釣れてしまったり、とうまく紙面をまとめるのには、毎回苦勞させられています。



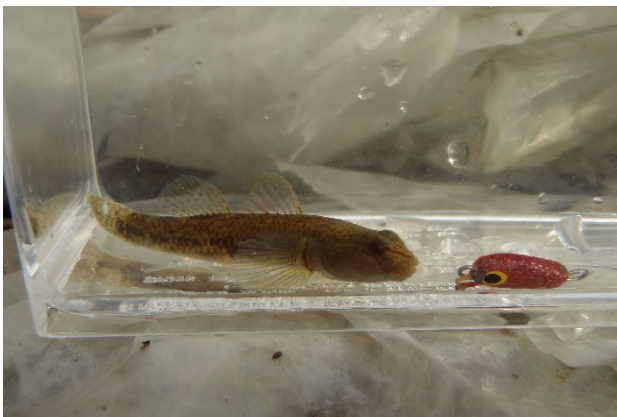
まずは「カワヨシノボリ」です。この魚は、宮川内谷川上流域で釣っていた時、これだけが釣れました。本来は、ヨシノボリ類とかドンコ類、タカハヤとかの上流域の魚を数種類釣って特集とする予定でしたが、数回いろいろなところへ行きましたが、これ以外は釣れずフォルダの隅で埃にまみれていました。

この魚は、吉野川に居るヨシノボリ類6種類の1種で、流れのある上・中流域に生息しています。ヨシノボリの名の由来は、水上の岩の表面を登って遡上していくさまから、「芳登り」と言われています。降海する種類の多いヨシノボリ類には珍しく海に下りない陸封型です。

徳島では、「ジソク」と呼ばれ、たらいうどんの出汁として有名。ヨシノボリ類で一番の美味とされています。特徴は、頬の赤小斑点。

ヨシノボリ類は、まだまだ分類が出来ていない種で、種類数や名前は今後も変わっていくと思われます。新種発見もあるかも！

釣りは、大き目の石の周辺でジグを躍らせているとすぐにアタックしてきますがサイズが小さいため、合わせるのが大変でした。



4 cmほどの「カワヨシノボリ」



ハゼ類は、同定が難しいので左向きも掲載

続いての魚は、「イトヒキハゼ」です。こちらは、新町川河口域で珍しい魚狙いをしていた時にメタルジグで釣れたものです。

この魚は、内湾の砂泥底でテッポウエビと共生していて、ルアーでは滅多に釣れませんが、投げ釣りをしているとよく釣れます。

釣りあげると手に噛みつく習性があり「テカミ」と呼ばれることもあります。私が釣ったときも噛みついてきてびっくりしました。(※噛まれても痛くなく、気持ちがいいくらいです。)



13 cmの「イトヒキハゼ」

次の魚に行く前に、私の年間における狙う魚種を語っておきます。



2月は、愛媛の溪流が解禁となります。また、中旬以降は、メバルの産卵後の荒食いが始まります。また、アイナメをスピントールジグで狙ったりもします。

3月もメバル・アイナメと溪流がメイン。

4・5月は、イワシ類が産卵の為接岸し、ブリ・サワラ等の青物、マダイ等の鯛類、スズキ類、ヒラメ・マゴチ等の底物等、何かのお祭りがああり、それを狙っています。

また、4・5月は、サツキマスの（アマゴの降海型）遡上があり、川に濁りが入ると連日の吉野川通いをします。

なお、4月末からは、アオリイカ等のイカ類も産卵期を迎え大型が狙えます。また、カマスが産卵のため接岸しますので、40cmアップのカマスも狙います。

6月に入るとタコが開幕し、半年分のストックを確保するため忙しくなります。

7・8月は、暑いので、例年は溪流に避暑を兼ねて行くか、レンタルボートで愛媛県南部の沖磯を攻めるかといったところです。

近年は当投稿のため、吉野川の小物狙いをしています。

9月に入ると南の魚が釣れるサイズになるのでメッキ等や南方の珍しい魚狙いが多くなります。

また、イカ類の秋の新子が釣れ始め、数釣りシーズンも始まり、半年分のストックを確保するのに一生懸命となります。

10～12月は、春と同様にイワシ類の産卵接岸があり、また、お祭り騒ぎとなります。徳島では、秋はタチウオも熱いです。愛媛の中予では岸から殆ど釣れなくなりました。



建設の進む高速道



建設の進む高速道



夕日に染まる高速道の橋



と、周年の狙いを書いてきましたが、そうです。1月については、本当に狙い目がなく困ってしまいます。小さな魚は、水温の低下とともに活動が鈍り、淡水魚は、石の隙間に隠れてしましますし、海水魚は、深場に落ちていきますのでそれを狙う魚食魚も深場に移動します。スズキ、メバルも産卵期となりあまり釣れなくなります。

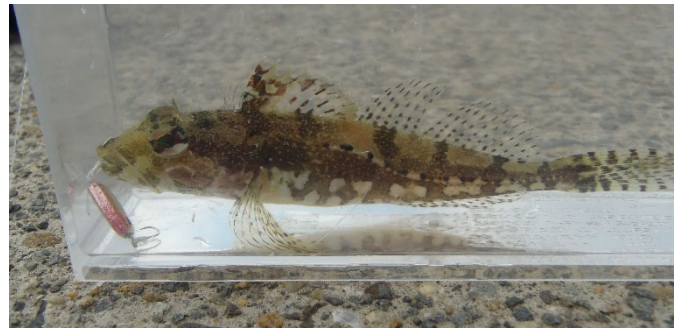
そこで、1月は致し方なく小メバル、カサゴ、アナハゼを狙うことが多くなります。

そう、続いては、新町川下流域で釣れた「アサヒアナハゼ」です。

この投稿を始めるまでは、あまり区別していなかったのですが、アナハゼにもどうも沢山の種類がいるようで(9種類)最近、まめに写真を撮って同定してみると、吉野川では現状で2種同定出来ました。樅泊で1種と徳島県で3種となりました。

前々から書いているとおり、アナハゼは、冬になっても活性があまり下がらず、漁港等で、小型のスプーン、メタルジグ、ワームなどで漁船の係留ロープや牡蛎、イガイ、海藻の塊の近くをチョコチョコ探れば高確率で釣れてくれます。

ただし、引きはほとんどなく、「ぬぼーっと」上がって来るだけなので1月以外で喜んで釣るものではありませんが・・・・・・・・



8 cmの「アサヒアナハゼ」



青い口が特徴のアナハゼのバス持ち【再掲】

下の魚は、何でしょう？



5 cm程の「アユの稚魚」

正解は、琵琶湖で「氷魚（ヒウオ）」と呼ばれるアユの稚魚です。新町川河口域で2月に珍魚を狙いジギングしていたときにスレで掛かってきました。

アユは、両側降海魚で、秋に産卵し、稚魚は降海し、河口付近で春を待ちます。桜の開花と時を同じくして遡上を始め、夏には大きく育ち、友釣りで釣れるようになります。

続いては、ルアーで釣った、珍しい魚をご紹介します。メダカではなく「カダヤシ」です。カダヤシは、北米原産で、蚊の幼虫（ボウフラ）駆除のため、日本に移入されました。それで「蚊絶やし」という名前になったようです。しかし、繁殖力が強く、在来種を駆逐してしまうことから、現在では、特定外来生物に指定されています。



4. 5 cmの「カダヤシ ♀」

話が急に変わりますが、私の目標のひとつに『メダカをルアーで釣る』というのがあります。大きさも極小サイズですし、表面に浮いているので、とてつもなく釣りにくいのです。それで、居るところを見つけては、トライを続けて来ましたが未だに釣りあげることが出来ていません。今回カダヤシが釣れたことで、少し光明が差し、釣れる気がしてきました。

この魚の釣れた状況ですが、夏場に徳島市川内の水路を、タナゴを探して彷徨っていたところ、珍しく流れの発生していた水路の流れの澱んだ部分の表面に4～5 cm程のボラの幼魚のような魚を見つけました。橋の上から半信半疑のままルアーを通してみるとあらあら反応するではないですか！しかし、やはり少し沈めるともうそれ以上は追ってきません。そこで、蚊が水面に漂っていることを想像して、ブランコのように糸を出さず針の部分だけが水面を滑るように操作してみると、十数匹の群れ全体が右往左往しながら、しゃにむにルアー（針の赤い糸の部分）を追っかけてきます。そのうち、そのなかのひとときわ大きな個体がかっぷりと喰い付いてきました。

「ウォッ、本当に喰い付いた」と心の中で叫びながら、竿を振り上げるように大きく合わせると、魚が小さいですから、当然の如く魚が針から外れどこかへすっ飛んでいってしまいました。大慌てで落ちたであろう草むらを探します。泥だらけにはなりましたが、なんとか探すことが出来ました。見ると待望のメダカかと思いましたが、色が付いていて少し違います。家に帰り同定するとカダヤシでした。その夜は、当然一人で祝杯をあげました。

今回は、エトセトラ特集（吉）でした。新町川とか川内の市街地の水路でも、いろいろな種類の魚が潜んでいるものです。

徳島市街地河川は、現在では、水質・水色・景観も相当改善され、なかなか面白い釣り場となっています。シチュエーションも様々でいろいろなポイントがありますので皆さんも良くなった環境で釣りを楽しんでみて下さい。

今回、4魚種ゲット。通算58魚種となりました。次はどこで何を狙おうかな？

### 釣り人Nのお魚紹介コーナー



#### <カワヨシノボリうんちく>

ススキ目 ハゼ亜目 ハゼ科 ヨシノボリ属 カワヨシノボリ

棲んでいるところ：淡水魚 静岡県より西の本州、四国、九州北部の川の上・中流部

大きさ：全長6cm程度。

食べているもの：主に水生昆虫。

食べ方：佃煮、から揚げ、出汁。旬は？

#### <イトヒキハゼうんちく>

ススキ目 ハゼ亜目 ハゼ科 イトヒキハゼ属 イトヒキハゼ

棲んでいるところ：海水魚 新潟県～熊本県までの日本海・東シナ海沿岸千葉県～高知県の太平洋沿岸

大きさ：最大で13cm程度。

食べているもの：動物プランクトン、甲殻類、ゴカイ等。

食べ方：一般的に食用にされないが天ぷら、フライで食べられる。旬は？

・マゴチ釣りの生き餌として抜群らしい。

#### <アサヒアハゼうんちく>

ススキ目 ガジカ科 アハゼ属 アサヒアハゼ

棲んでいるところ：海水魚 北海道～九州北西部のほぼ日本各地沿岸。济州島等。

大きさ：10～15cmになる。

食べているもの：甲殻類やゴカイ、小型魚類などを食べる。

食べ方：一般的に食用にされないが天ぷら、から揚げで食べられる。旬は？

#### <カダヤシうんちく>

カダヤシ目 カダヤシ亜目 カダヤシ科 カダヤシ属 カダヤシ

棲んでいるところ：原産は、メキシコ湾に注ぐ河川。流れのない淡水や汽水域。

大きさ：メスは5cm程度になる。

食べているもの：肉食性が強く、プランクトンや小型の水生昆虫、魚卵、稚魚などを食べる。

食べ方：小さすぎて食用には向かない。食べるとしたらから揚げ 旬は？